

大分県におけるスモン患者の生活環境と抑うつに関する検討

軸丸 美香（大分大学医学部神経内科学講座）

山下 杏奈（大分大学医学部神経内科学講座）

木村 成志（大分大学医学部神経内科学講座）

松原 悦朗（大分大学医学部神経内科学講座）

研究要旨

スモン患者においては高齢化が顕著となり、加齢による ADL の低下も伴っている。新型コロナウイルス感染症の影響も 2 年を超え、行動抑制の影響が顕在化してきた。スモン患者の抑うつ状態の評価を行い、現在の ADL と家族や同居家族の有無や介護サービスの利用と抑うつに関して検討を行った。

大分県在住のスモン患者 11 名中 8 名に検診を施行し、7 名に抑うつの評価としての GDS-15 検査を行った。抑うつ傾向は、ADL の自立度が高く、介護サービスを含めた社会的関わりが多い群で低い傾向がみられた。年齢や、同居家族の有無とは関係がなかった。

A. 研究目的

スモン患者においては高齢化が顕著となり（平均年齢 81 才¹⁾、加齢による ADL の低下も伴っている。新型コロナウイルス感染症の影響も 2 年を超え、行動抑制の影響が顕在化し、2019 年及び 2020 年の一人当たり国民所得は前年と比較してマイナスとなり、社会全体で経済活動が停滞していることが伺える²⁾。スモン患者の多くは就労年齢ではないが、メディアによる報道、自身が利用している社会サービスの提供中止など、様々な形で影響がある。新型コロナウイルス感染症の影響により、メンタルヘルスへの影響が懸念され、不安・恐怖から抑うつ状態に移行することが予測される³⁾。これらを踏まえて、高齢スモン患者の抑うつと現在の ADL、同居家族の有無や介護サービスの利用との関連性の検討を行った。

B. 研究方法

大分県在住のスモン患者総数 11 名に対して、スモン定期検診希望の有無（往診、来院、電話、紙面で選択）を尋ね、検診希望者には、家族数、介護度、Barthel インデックス、うつ病評価尺度として

Geriatric Depression Scale-15 (GDS-15) をアンケート形式で尋ねた質問紙（図 1-3）を送付した。スモン検診希望者には、スモン検診時にスモン現状調査個人票に従い検診を行うとともに、図 1 の内容を面談時に確認した。Pearson の関数相関係数、もしくは Spearman の順位相関係数を用いて、GDS-15 と年齢、Barthel インデックス、介護度、利用中の介護サービス数、同居家族数との検討を検討した。上記の内容は、大分大学倫理委員会の審査および承認を受け施行した。

1. 同居家族数 _____ 名（本人含めて）： 差し支えなければ詳細をお書きください
例： 妻、子ども1人
2. 身体障害者手帳取得について
種 級 _____
取得年 _____ 年；障害名 _____
3. 介護保険を申請しましたか
A. 申請した
B. 申請していない
C. 分からない
認定結果は次のどれでしたか
a. 自立 b. 要支援1 c. 要支援2
d. 要介護1 e. 要介護2 f. 要介護3 g. 要介護4 h. 要介護5
i. まだ認定を受けていない j. 分からない
4. 日常生活について
A. 一日中寝床についている
B. 寝具の上で身を起こしている
C. 居間や病室で座っていることが多い
D. 家や施設の中をかなり移動する
E. 時々外出する
F. ほとんど毎日外出している

図 1 アンケートの質問項目

番号	質問内容	回答
1	毎日の生活に満足していますか。	はい いいえ
2	毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか。	はい いいえ
3	毎日が空虚だと思いませんか。	はい いいえ
4	毎日が退屈だと思うことが多いですか。	はい いいえ
5	大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか。	はい いいえ
6	将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか。	はい いいえ
7	多くの場合は自分が幸福だと思いますか。	はい いいえ
8	自分が無力であると思うことが多いですか。	はい いいえ
9	外出したり、何か新しいことをするよりは家にいたいと思いませんか。	はい いいえ
10	なによりも物忘れが気になりますか。	はい いいえ
11	いま生きていることが素晴らしいと思いませんか。	はい いいえ
12	生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか。	はい いいえ
13	自分が活気に溢れていると思いませんか。	はい いいえ
14	希望がないと思うことがありますか。	はい いいえ
15	周りの人があなたより幸せそうに見えますか。	はい いいえ

図2 アンケートの質問項目 GDS15

番号	質問内容	回答
1	バスや電車を使って一人で外出できますか	はい いいえ
2	日用品の買い物ができますか	はい いいえ
3	自分で食事の用意ができますか	はい いいえ
4	請求書の支払いができますか	はい いいえ
5	銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか	はい いいえ
6	年金などの書類が書けますか	はい いいえ
7	新聞を読んでいますか	はい いいえ
8	本や雑誌を読んでいますか	はい いいえ
9	健康についての記事や番組に関心がありますか	はい いいえ
10	友達の家を訪ねることがありますか	はい いいえ
11	家族や友達の相談にのることがありますか	はい いいえ
12	病人を見舞うことができますか	はい いいえ
13	若い人に自分から話しかけることができますか	はい いいえ
14	職業（パートを含む）に就いていますか	はい いいえ

図3 アンケートの質問項目 老研式活動能力指標

C. 研究結果

大分県におけるスモン患者 11 名のうち、検診希望者は 8 名（男性 4 人、女性 4 人、平均年齢 85 才）であった。検診内容の希望としては、往診 4 名、来院 1 名、電話検診 2 名、アンケートのみ 1 名であり、それぞれの患者から返答を得た。往診希望の 1 名は合併症のため意思確認が出来ないため、神経診察のみ実施した。抑うつに関しては、介護度の高さと相関が認められた。Barthel インデックスと利用している介護サービスの利用数とは負の相関が認められた。年齢および同居家族数とは相関がなかった（図 4-8）。

D. 考察

うつ病の評価尺度には様々なものがあるが、今回は高齢者を対象とし、質問項目が 15 項目で実施時間が比較的短い GDS-15 を用いた。15 点満点中 5 点以上を抑うつ傾向ありと判定する。厚生労働省 2014 年 10 月のうつ病・躁うつ病の患者調査ならびに総務統計局

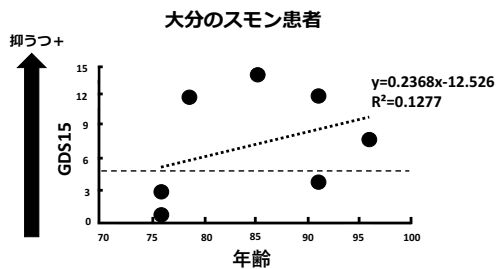
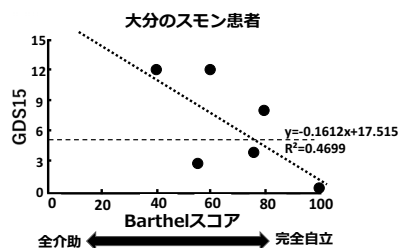
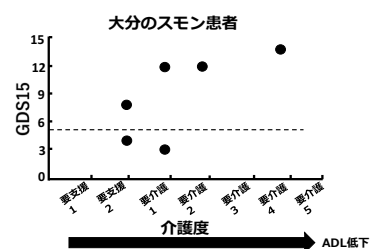


図4 年齢と抑うつ 関連なし



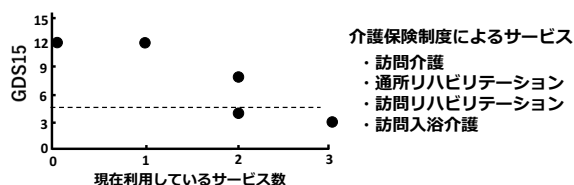
Barthelスコアが高いほど抑うつ傾向低い

図5 Barthel スコアと抑うつ



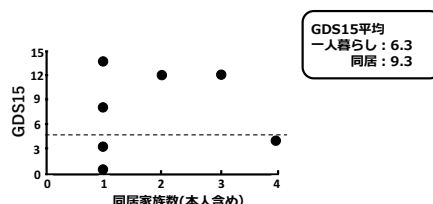
ADL低下は抑うつ傾向

図6 介護度と抑うつ



サービス利用数が多いほど抑うつ改善

図7 介護サービス数と抑うつ



独居と抑うつの相関なし

図8 同居家族数と抑うつ

の人口推計を参考にすると、うつ病・躁うつ病の男女年齢別患者率は男女とも40歳代がピークでその後は加齢とともに減少する。図4の通り、大分県在住の高齢患者では、平均年齢が85歳であり、年齢と抑うつとの相関はなかった。Barthel スコアに基づく ADL 評価では、スコアが高い、すなわち自立度が高いほど抑うつ傾向は低かった（図5）。同様に、介護度の高さは自立度の低さと関連するが、介護度が高いと抑うつ傾向は高いが、今回の検討では相関は認めなかった（図6）。これは、介護度が正確に自立度を反映していない可能性があるのではないかと考えている。社会状況も含めて更なる検討が必要である。図7に示すように、介護サービスの利用数が多いほど、GDS-15 の得点が低くなるように見えるが、相関は認めなかった。対象人数が少なく検定に十分な対象数が得られていない点がこの検討の限界であることを踏まえたと、介護サービス数が多いほど抑うつ傾向が低いのは、社会とのかかわりが少なからず保っていることを反映している可能性を考えている。スモン患者に限らず、外出の機会が限られている身体機能の低下した高齢者では、定期的に出かける場所の確保が重要であることを臨床現場では実感することが多い。そうであれば、介護サービスの質の向上とともに、コロナ禍でも制限されないサービス提供の重要性が示唆されている可能性もある。他者との交流という点では、同居家族の有無も重要であると考えられる。しかしながら、図8に示すように、独居と同居家族有とでの抑うつ傾向には差はなく、むしろ有意差はないものの、同居有の方が抑うつを示す点数が高かった。スモン患者では独居ができる程 ADL を保つことが出来ていることが重要であることが伺える。

E. 結論

コロナ禍における大分県在住のスモン患者では、抑うつ傾向は、ADL の自立度が高く、介護サービスを含めた社会的関わりが多い群で低い傾向がみられた。年齢や、同居家族の有無とは関係がなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) スモンに関する調査研究 令和2年度総括・分担研究報告書
- 2) 内閣府 HP 一人当たり名目 GDP 等 cao.go.jp
- 3) 国家的危機に際してメンタルヘルスを考える 日本医師会雑誌 150 巻 (6), p 961-971, 2021.